

■玉井喜作 国際的ジャーナリストの草分けで、ドイツで健筆を振うも、早世。

たまいきさく

薩長同盟・・・1866＝ 現在の山口県光市で、造り酒屋の5人兄弟の末子に生まれる。

大政奉還・・・1867＝ 1歳：

明治維新・・・1868＝ 2歳：

明治6年政変 1873＝ 7歳：

初の民間工場1875＝ 9歳：

幼時から学校の成績は抜群で、

明治14年政変1881＝15歳：

新体詩抄・・・1882＝16歳：

帝国大学医学部予備門に最年少で合格。麹町に下宿し、仕送りを学費に充てず、連日のように友人を招いて(南方熊楠も)酒宴したため、除籍処分となるが、その後も授業に出続け、ドイツ語をマスターする。

秩父事件・・・1884＝18歳：

帝国大学始・・・1886＝20歳：

実家の勧めで幼馴染のエツと結婚し、商才も發揮して、主にドイツ語を教えるいわば予備校の東京速成学館を開校し、学生の下宿も兼業。

初の対等条約1888＝22歳：

破格の待遇で札幌農学校のドイツ語教授に招かれ、妻と生後まもない長女を連れて移住。

帝国憲法発布1889＝23歳：

帝国議会始・・・1890＝24歳：

相変わらず学生や(新渡戸稲造を含む)同僚らを自宅に集め、次女・三女も誕生するが、突然、官職を捨てて農業を始めたくなり、即実行に移すものの、素人では満足に収穫できず、蓄えも底をついたため、

大本教・・・1892＝26歳：

故郷の山口に引揚げ、ドイツに行きたいと、ウラジオストクまでの渡航費を工面し、単身下関を出港。

郡司千島探検1893＝27歳：

陸軍の福島安正中佐がシベリアを単騎横断し、海軍の郡司成忠大尉が千島列島を探検して、国民が快挙に沸き立つなか、シベリアを無銭旅行で苦闘しながら横断し、ようやくハンブルグで貿易会社に就職し、

日清戦争始・・・1894＝28歳：

*首都ベルリンに赴任、日本に対する偏見に満ちた批判が溢れているのに痛憤、ドイツ語の反論原稿を新聞社に持ち込むと高い評価を得、大新聞から極東情勢を書くべく雇用され、日清戦争報道で絶賛されるが、日本の勝利で中国のドイツ権益が侵されると記事が握りつぶされ、退社。新聞社会長の勧めで、シベリア横断の体験「西比利亞征槎紀行」を出版し、多額の印税を手にとると、日本とドイツの友好を願う異色の月刊誌{東亜}を刊行、日本人がヨーロッパで発刊した初の雑誌となる。予想を超える大反響を受けて、日本企業の広告も増大、シーボルトの長男をはじめ多くの寄稿も得て、順調に号を重ね、貞奴ら芸妓・皇太子や日本の軍艦などの絵葉書も作成して大人気を得る。

教科書疑獄・・・1902＝36歳：

日本に残して来た妻子をベルリンに呼び寄せ、10年ぶりに再会、事務所を兼ねた大邸宅に移る。自邸は在住日本人のサロンと化し、やがて私設公使と呼ばれ、後藤新平・新渡戸稲造・美濃部達吉・鈴木貫太郎ら大物も来訪、来独した扇芳亭一座や川上音二郎一座も、好意的な記事を書くなどして物心両面から支援、

日露戦争始・・・1904＝38歳：

*日露戦争が始まると、{東亜}誌上で精力的に募金活動する一方、ロシア公使館付武官でドイツに脱出してきた明石元二郎の依頼で諜報活動の工作員となり、ロシア官報の重要記事を見つけて打電などし、日本の大勝利後、次女が病死、自らも結核で咯血しながら、日本の東北地方の大飢饉に義援金を募り、

日露戦争終・・・1905＝39歳：

満鉄発足・・・1906＝40歳：

*なお、101号まで{東亜}を発行し続けて、没した。